



「オープンイノベーションを通じて、安心と安全を」

公益社団法人 日本防犯設備協会 理事
セコム株式会社 執行役員 技術開発本部長

田中 貞朗



新年あけましておめでとうございます。

昨年6月より新たに日本防犯設備協会の理事を拝命致しましたセコム株式会社の田中と申します。皆さまと共に、安心と安全を提供する使命を胸に、より良い未来を共に創り上げることを光栄に感じております。経験不足でありますが、少しでも日本防犯設備協会並びに皆さま方のお役に立てるよう努めてまいりますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

◆私の業務経験

私は、新卒でセコム株式会社に入社後、岐阜県大垣市にて警部スタッフ（ビートエンジニア）として勤務し、その後東京都三鷹市の技術開発部門で、様々なセキュリティシステムの設計や、ハードウェア・センサー開発、また宮城県白石市での工場勤務等、機器開発・製造に関わる様々な業務に携わってきました。

セコムは、「トータルパッケージ・システム」という独自のサービス一貫体制を敷いており、6パートで全てをセコムグループが責任を持って行っております。私は、この中の3つのパートで経験を積ませて頂きました。今後、様々なジャンルにおけるプロフェッショナルである皆様方とお話しできることを楽しみにしております。

<セコムのサービス体制（トータルパッケージシステム）>



◆最近の動向

セコムは常日頃から、世の中の社会課題に対して、私たちにできることは何かを考えています。近年では、労働力人口の減少や高齢化に伴う省人化・省力化ニーズの拡大、犯罪傾向の変化などを重要な課題として捉えており、それらに対して新しい技術を取り入れ、活用するための手段を模索しています。

＜近年の社会環境の変化・課題＞

- ◆テクノロジーの進化 : AI、クラウド、高速通信技術や低軌道通信衛星の活用
- ◆体感治安の悪化 : 広域強盗事件（ルフィー）、トクリュウ（匿名流動型犯罪グループ）
- ◆自然災害頻発・激甚化 : 大地震の頻発、大雨や雷の増加
- ◆労働人口の減少 : 警備業の有効求人倍率上昇
- ◆高齢化の進行 : 65歳以上人口の急増

この数年でAIやクラウドは目覚ましい進化を遂げ、通信やセンシング、ロボティクス技術なども発展し続けていますが、これらの先端技術には悪用・誤用のリスクも伴うため、どのようにサービスに活かしていくかを検討し続けることが重要だと考えています。

近年、監視カメラにAI機能の実装が進んでいますが、セコムでは、1998年より監視カメラの画像から異常を検知する「画像認識技術」に取り組み、この技術を生かしたオンライン・セキュリティシステム「セコムAX」を、2010年には強盗を監視カメラの画像から自動で検出・通報する「セコムインテリジェント非常通報システム」、2014年には歩いている人物の顔認証を可能とした「ウォークスルー顔認証システム」を開発しました。

の中にはAIのコアであるパターン認識が重要な要素技術として使われており、ディープラーニングが登場するずっと以前からAI技術を導入したサービスを社会に提供してきました。現在は、新たなAI・クラウド技術を活用したサービスへの進化を続けています。

また、新技术の活用に向けて自社でチャレンジすることも重要ですが、他の知見やスキルを持つパートナーとも協働が不可欠と考えており、オープンイノベーション活動も推し進めています。このオープンイノベーションにより、既存の枠組みを超えた新しいサービス・ユーザー体験の実現を目指しています。そして、想いを共にする業界各社へのシステム・ノウハウ提供、警備DXの推進を行い、地域や社会全体の「安心・安全」の品質向上を実現していきたいと考えています。

セキュリティ事業 <警備業界のDXを推進>

セコムのシステムやノウハウを、想いを共にする業界各社へ提供することで、警備DXを推進

常駐警備 イベント警備 設備管理 貴重品輸送

想いを共にする業界各社のDXを推進

警備DX Supported by SECOM

よりオープンな体制で提供

最新技術を活用したセコムのセキュリティシステム

パーソナルモビリティ ウエアラブルデバイス 情報処理 ロボティクス データセンター

地域や社会全体の「安全・安心」の品質向上を牽引

© 2023 SECOM CO.,LTD. All rights reserved.